

2008 年度 ANA グループ航空輸送事業計画を策定

～ 2010 年の「首都圏再拡張」に向けた体制を構築 ～

ANA グループは、2008 年度(2008 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日)の航空輸送事業計画を策定いたしました。「2008～2011 年度中期経営戦略」の初年度として経営ビジョン「アジアでナンバーワン」の達成に向けた「価値創造経営」を着実に進めるとともに 2010 年に控えた「首都圏再拡張」に向けた体制構築を図ってまいります。

2008 年度 ANA グループ航空輸送事業計画の概要は次のとおりです。

1. 概要

(1) 国際線事業の概要

2010 年「首都圏再拡張」以降の競争力を確固たるものにすべく「ネットワークキャリア型」ビジネスモデルの基盤構築と「自由化の潮流」のなかで、流れの先頭に立つためのグローバルズムの醸成と戦略構築のための「ナレッジ」を蓄積する。

「アジア・ゲートウェイ構想」に伴い、羽田＝香港、北京(南苑空港)線の開設

拡充された羽田国際チャーター便運航可能時間帯を活用し、2008 年 4 月から羽田＝香港線を毎日チャーター運航いたします。また、2008 年 8 月開催の「北京オリンピック」開催を契機に環境条件が整い次第、羽田＝北京(南苑空港)路線へチャーター便の運航を計画します。

ネットワーク型ビジネスモデルの更なる強化

2008 年 4 月 1 日から台北線の便名を「ANA」グループ便名に変更し、「ネットワークキャリア型」ビジネスモデルを強化します。ダイヤ変更およびコードシェア拡充を計画し、さらに利用しやすい接続時間帯などの向上に努めます。

関西線の増便

2008 年 3 月から、関西＝青島線を 2008 年 6 月から関西＝大連線を増便し、それぞれデイリー運航とします。また関西＝杭州線に最新鋭のボーイング 737-700 型機を投入します。

* これらの計画は関係当局の認可を前提としております。

(2)国内線事業の概要

国内線事業では、需要や競争環境を勘案、「強いオペレーション」を実現する「シンプル・ローテーション」の構築とそれを支える乗り継ぎ型運賃など各種戦略の遂行により、収益性を堅持します。

強いオペレーションを実現する「シンプル・ローテーション」の構築

定刻運航の必然性やイレギュラーに強い運航、新幹線との競争激化などを勘案し、現状のオペレーションを主基地・目的地間の単純往復化や基地ごとの主要機種設定などに転換させ、今まで以上に「強いオペレーション」を実現させ、利便性の向上に努めてまいります。

富士山静岡空港開港に伴い、静岡＝札幌・沖縄線の開設

2009年3月開港予定の富士山静岡空港に、札幌・沖縄線をそれぞれ1日1往復ずつ就航いたします。

高品質なサービスの提供

2008年4月から開始する上質の「国内線プレミアムクラス」展開を加速すべく、ボーイング777-200型機、777-300型機、737-700型機、767-300型機、747-400型機のシートを順次改修いたします。

(3)貨物郵便事業の概要

ANAグループの事業領域の「第3のコア・ビジネス化」を目指した収益基盤の構築と事業性の向上を実現する「貨物基本ネットワーク」の構築を行います。加えて「沖縄ハブ構想」確立に向けた販売・生産体制の構築を図ります。

「貨物基本ネットワーク」の構築

増機する貨物専用機を活用し、「貨物基本ネットワーク」確立のため、厦門、青島、台北線への増便を行い、「ウィークデーデイリー化」を確立します。

旅客機を改修した貨物専用機の導入

ANAで運航していたボーイング767-300型機を貨物機に改造、2008年6月に初号機、12月に2号機が導入されます。同型旅客機を貨物機へ改造することは、世界で初めて行われるもので、ANAの経営効率の一翼を担うものでもあります。(2005年10月31日 第05-154号にて発表済)

「第3のコア・ビジネス化」を目指し、事業基盤の強化を実施

国際エクスプレス新会社の設立と営業開始、関西空港を中心とした貨物ネットワークの拡充等を背景に、2009年度下期に予定される「沖縄ハブ構想」に向けて円滑な貨物事業の基盤強化を行います。

2. 内容

(1) 国際線事業

新規開設

路線	実施時期	便数(現行)	運航機種	備考
羽田 = 香港	2008 年 4 月 1 日	7 往復/週(-)	767-300ER	チャーター運航

増便

路線	実施時期	便数(現行)	運航機種
関西 = 青島	2008 年 3 月 30 日	7 往復/週(3 往復/週)	A320-200
関西 = 大連	2008 年 6 月 1 日	7 往復/週(4 往復/週)	767-300ER

運航機材変更路線

路線	実施時期	現行機種	変更後機種
関西 = 杭州	2008 年 6 月 1 日	767-300ER	737-700

(2) 国内線事業

新規開設

路線	実施時期	現行便数	変更後便数
静岡 = 新千歳	2009 年 3 月 予定	-	1 往復/日
静岡 = 沖縄	2009 年 3 月 予定	-	1 往復/日

再開路線

路線	実施時期	現行便数	変更後便数
羽田 = 三宅島	2008 年 4 月 26 日	火山噴火により休止	1 往復/日 (PROP1)

増便・機種変更等

路線	実施時期	現行便数	変更後便数
伊丹 = 福岡	2008 年 4 月 1 日	6 往復/日 (JET3 + PROP3)	7 往復/日 (JET3 + PROP4)
関西 = 松山	2008 年 4 月 1 日	2 往復/日 (JET2)	3 往復/日 (JET2 + PROP1)
関西 = 高知	2008 年 4 月 1 日	2 往復/日 (JET1 + PROP1)	3 往復/日 (PROP3)
中部 = 秋田	2008 年 4 月 ~ 10 月	1 往復/日 (JET1)	2 往復/日 (PROP2)
沖縄 = 高松	2008 年 4 月 1 日	1 往復/日 (4 ~ 6、10 ~ 3 月運航)	1 往復/日 (通年化)

* これらの計画は関係当局の認可を前提としております。

休止

路線	実施時期	現行便数
新千歳 = 松山	2008 年 4 月 1 日	1 往復/日 (4 ~ 10 月運航)
新千歳 = 中標津	2008 年 4 月 1 日	1 往復/日
新千歳 = 鹿児島	2008 年 6 月 1 日	1 往復/日 (6 ~ 10 月運航)
新千歳 = 高松	2008 年 7 月 1 日	1 往復/日 (7 ~ 9 月運航)
新千歳 = 庄内	2008 年 7 月 1 日	1 往復/日 (7 ~ 8 月運航)
福岡 = 富山	2008 年 4 月 1 日	1 往復/日 (4 ~ 9 月運航)
福岡 = 仙台	2008 年 4 月 1 日	2 往復/日

*新千歳 = 中標津線を除く路線は、2007 年 9 月 28 日に公表済み

減便

路線	実施時期	現行便数	変更後便数
伊丹 = 長崎	2008 年 4 月 1 日	4 往復/日	3 往復/日
伊丹 = 高知	2008 年 4 月 1 日	12 往復/日 (PROP12)	6 往復/日 (JET2 + PROP4)
新千歳 = 福岡	2008 年 6 月 1 日	1 往復/日 (6 ~ 10 月のみ 2 往復/日)	1 往復/日
福岡 = 新潟	2008 年 4 月 1 日	2 往復/日	1 往復/日
丘珠 = 釧路	2008 年 4 月 1 日	3 往復/日 (PROP3)	2 往復/日 (PROP2)
丘珠 = 函館	2008 年 4 月 1 日	5 往復/日 (PROP5)	4 往復/日 (PROP4)

(3)機材計画

2008 年度の ANA グループ運航機材の新規導入および退役計画は次の通りです。

導入計画	機数	退役計画	機数
ボーイング 777-300ER	1	ボーイング 747-400	2
ボーイング 767-300ER	2	ボーイング 767-300ER	2
ボーイング 767-300BCF	2	エアバス A320-200	6
ボーイング 737-700	1	F50	3
ボーイング 737-800	5		
合計機数	11	合計機数	13

(4)ANA グループの国際線旅客、国内線旅客および貨物郵便事業の生産量

事業規模前年比	国際線旅客便	国内線旅客便	貨物専用便
運航回数	106.2%	97.8%	116.0%
座席キロ (貨物はトンキロ)	101.4%	94.8%	131.5%

以 上